

| | |
|-------------|--|
| 開催地名：岡山県倉敷市 | |
| 開催日時 | 令和4年10月18日（火） 13：20～14：50 |
| 開催場所 | 倉敷市立黒崎中学校 |
| 語り部 | 石川 弘子（福島県いわき市） |
| 参加者 | 黒崎中学校生徒・保護者・職員 50名 |
| 開催経緯 | <p>当市では真備町の水害が4年前に起き、災害の恐ろしさを目の当たりにしてきた。また、本校周辺は土砂災害警戒区域に入っており、海岸沿いのため津波の危険性もあるため、日頃から防災意識を高く持つ必要があると考えている。さらに、地域住民は高齢者が多く、低年齢層が少ないため、災害発生時には、低年齢層が大きな役割を担うことになる。その意識付けも必要であることから、昨年、防災に関する講演会や授業を実施するとともに、「防災の日」を設定するなどして啓蒙活動を推進している。</p> |
| 内容 | <p>（1）はじめに</p> <p>まず初めに皆さんにお伝えしたいことは、命は自分のものであり、自分で守らないといけないということだ。家族も、友達も、それぞれが自分の命を守るために避難しなければならない。しかし、一見簡単そうなこのことが、想定外の地震が起こると、なかなかうまくいかないものである。</p> <p>また、皆さんに考えてもらいたいことは、将来ここ倉敷で地震が発生したときに、どのように避難するのか、そして避難したときどのように行動するのかということだ。地震は近い将来発生するかもしれないし、数十年先のこともかもしれない。日中に起きるかもしれないし、夜中に発生するかもしれない。さらに言えば、地震は想定外の大きさのものかもしれないし、想定未満のものかもしれない。いずれにしても、皆さんにお願いしたいのは、決して先送りせず、日常的に意識して備えを進めることだ。今日は私が体験したことを皆さんにお話ししたいと思います。</p> <p>（2）東日本大震災の被害状況</p> <p>2011年3月11日の午後に発生した地震は、これまで経験した地震の中で最も大きなものだった。壁に掛けてあったものがすべて落ち、食器棚から食器も落ちてきた。揺れが収まり、外に出てみると、いろんなものが倒れていた。テレビでは、3メートルの津波が来る恐れがあるとっていた。私は家の近所を回り、地震の被害状況を写真撮影していた。津波は来ないだろうと油断していたのだ。しかし、7.5メートルの津波が、地震の40分後にやってきた。近所のお年寄りが何人か巻き込まれるのを目撃した。また、その後堤防沿いを歩いているときに、津波が川をさかのぼってきて、川の対岸にいる大勢の人たちが津波に巻き込まれていくのが見えた。私の町では、関連死を含めて69人の命が犠牲となった。もっと早く避難しておけばよかったと、今でも後悔をしている人が大勢いる。</p> <p>私の住む町は、福島第一原発からギリギリで30キロ圏内に入るため、すぐに避難を求められた。スパリゾートハワイアンズの近隣にある小・中学校の体育館が避難所となり、バスで移動した。長い人は2か月以上も避難所で避難生活を送ったのだが、避難生活で一番大変だったのはトイレである。食べることは、食事の間隔が多少開いても我慢できるが、生理現</p> |

象は我慢することができない。また、トイレに行くことを避けるために水分を取るのを控えたりすることで、体調を壊してしまう。避難所だった体育館に収容できたのは約 500 名で、入りきれない人たちは、校庭や、学校へ向かう道路に車を停めて車中泊でのいだ。

(3) 地震が起きたら

揺れが来たら、まずは上から落ちてくる物から身を守る必要がある。机の下などにうずくまるのが正解だ。スーパーマーケット等で地震に遭遇した場合は、かごを頭にかぶってうずくまり、揺れが収まるのを待つべきだ。外に出るのは揺れが収まってからである。そして火災が発生した場合は、119 番や避難と併せて、周囲の人たちに火事だということを伝達することが重要である。

南海トラフ地震は、概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）及び昭和南海地震（1946 年））が発生してから 70 年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきている。必ず発生するものと想定して、備えることが重要である。そして、どこにどうやって避難するのか、家族でしっかり話しておくことが大切だ。平時の毎日の積み重ねが、皆さん一人一人の命を守ることに繋がる。是非実行してほしい。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、映像を使って津波の怖さや避難所生活について、ご説明いただいた。改めて災害に対するイメージを強く認識することができたと思う。また、災害時を想定してバケツリレーについてもご指導いただき、防災意識を高めることができたと思う。より早く避難することを常に意識していくとともに、津波対策の避難訓練を強化していきたい。